

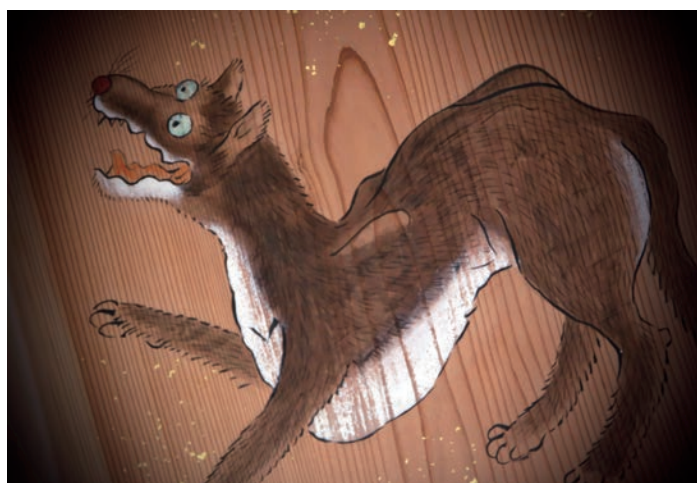
「あの日」から8年。

震災を見つめ続けてきた二人による「言葉」と「写真」のコラボレーション。

文学に見る震災資料

「語り継ぐいのちの俳句」展

高野ムツオ (俳人) × 佐々木隆二 (写真家)



二月二十五、二十六日と福島の中間と飯館村、相馬市を訪ねた。飯館村には山津見神社がある。ここには、震災後の火事で焼失した二百四十二枚の狼の天井絵が、その後、多くの人の支援を得て復元され、奉納されている。拜殿を上り仰ぐと絵の狼がどれもやさしいまなざしを投げ返してくれた。飯館村はこの年の三月末に避難指示解除になった。しかし、帰還した人の数はもとの一割に満たない。他の市町村も同様ののだ。狼の遠吠えがどこからか聞こえてきた。

狼の声 全村避難民の声

(平成二十九年)

新聞各紙で話題の『語り継ぐいのちの俳句——3・11以後のまなざし』(高野ムツオ著/朔出版刊)から高野ムツオ氏の震災詠二十数句とその自解を紹介。佐々木隆二氏の写真と合わせて展示します。

高野ムツオ (たかの むつお)

1947年宮城県栗原市生まれ、多賀城市在住。阿部みどり女、金子兜太、佐藤鬼房に俳句指導を受ける。2002年、鬼房の意を受けて俳誌「小熊座」主宰を継承。2014年、第五句集『萬の翅』により、読売文学賞、蛇笏賞、小野市詩歌文学賞を受賞。その他の句集に、『陽炎の家』『雲雀の血』『蟲の王』『片翅』、著書に『時代を生きた名句』がある。現在、蛇笏賞選考委員、河北俳壇選者。

佐々木隆二 (ささき りゅうじ)

1940年宮城県気仙沼市生まれ、仙台市在住。東北と宮沢賢治をモチーフに撮影を続けている。「百姓一年生」「いのち」「賢治が歩いた宮城」「回転木馬」などを発表。著書に『宮城庶民伝』(共著)、写真集『風の又三郎』など。「仙台文学館ニュース」「まちりよく」の写真を担当。ボランティアアカメラマンとして「復興コンサート」を記録している。

2019年3月、全国4カ所で同時開催！ [宮城 / 岩手 / 福島 / 東京]

入場無料

■ 仙台文学館

3月1日(金)～3月27日(水)

〒981-0902宮城県仙台市青葉区北根2-7-1
Tel:022-271-3020 月曜日・3月22日(金)休館

■ コラッセふくしま 5階

3月1日(金)～3月15日(金)

〒960-8053 福島県福島市三河南町1-20
Tel:024-525-4098

■ 日本現代詩歌文学館

3月8日(金)～3月31日(日)

〒024-8503 岩手県北上市 本石町2-5-60
Tel:0197-65-1728 月曜日休館

■ ゆいの森あらかわ

3月1日(金)～3月27日(水)

〒116-0002 東京都荒川区荒川2-50-1
Tel:03-3891-4349 3月22日(金)休館

お問い合わせ：朔出版

〒173-0021 東京都板橋区弥生町 49-12-501

TEL・FAX 03-5926-4386 info@saku-pub.com 担当 鈴木(携帯電話 090-6016-8530)